

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもの森うらここ（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年12月20日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所が山や川など自然に囲まれた環境にあり、法人所有の森も隣接しているため、自然あそびが充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・土や川水、雪、草木や虫、小動物など自然の素材にふれ季節を感じ、命の大切さや生きる喜びを感じられる活動を心掛けている。 ・斜面や凸凹道を歩き自分の姿勢や体の傾きを感じ環境に合わせた体の動かし方を身につけるなど、心身の発達のために自然環境を生かした活動を多く取り入れている。 ・どんな事に気を付けるか危険回避の話も合わせてしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも危険回避能力を高めるために職員間で話し合い、現場での研修を重ねて伝えていきたい。 ・自然の中に入る前に、自然の素材を採取したり現場写真や実物を用意して子どもに見てもらうことで見通しをもち安心して活動に参加出来るようにしていきたい。
2	マッチやナイフ、鎌や工具、調理器具などの道具を使った体験ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌や薪割り機などを使ったり火起こしをするなど目と手の協調運動や、成果を体感することで、達成できた充実感や危険な道具を安全に使用できた自信、大人から信用され危険な物を取り扱う事ができた自信を得られる経験を目指している。 ・道具をよく観察し、道具の特性や安全な使い方を一緒に研究することで成果よりも「よく考え工夫した」経験に目を向け自信にする。 ・危険が伴う道具は手渡す前に安全な使い方、安全な持ち歩き方も確認し、大人が1対1で付き添い安全確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険を予測し、安全に道具を扱うためのポイントを職員間で話し合いながら使い方、教え方の技術を向上させていく。 ・起こした火を使った食事や調理のメニューなど目的を充実させる事でより楽しく取り組みやすいものにしていく。

3	複数の活動内容や、集団参加、個別活動の設定を並行して準備しており、個々に合った活動を自分で選択する事ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時に絵や写真を用いた分かりやすい基本の予定表を確認し、意向を聞きながら子どもと一緒に予定の修正や時間配分、個々のスケジュールを作成する事で、見通しをもち最後まで楽しく活動できる。 ・毎週調整会議を開き、全職員で活動内容や個々の趣味志向について予測をたてるなどして話し合っている。 ・複数のあそびや工作のキットなども用意しておき、対応できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている時や大人と1対1で安心して活動したい時に寄り添い、グループ分けをしてもどのグループにも大人が傍にいられるように今後も大人の役割、配置を考え協力していきたい。 ・それぞれのグループに分かれ直接対応出来なかった職員ともお互いの場での子どもの様子を共有しておくことで、継続した日々のより良い支援につなげたい。
4	地域に顔見知りができ、地域に見守られながら安心した環境の中で過ごす事ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事、イベントに参加したり、散歩をしながら子どもと一緒に通信を届けるなど、自然に地域の中で交流がうまれるようにしている。 ・他の障がい者支援施設の方と一緒にアート活動をしたり、医療機関のグループホームや田んぼで合同の活動をするなど多様な地域の大人に見守られた活動をしている。 ・外部の臨床美術士や、ボランティア、見学者など暖かい眼差しで子育てを応援して頂けるかたに来所して頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境、知らない事や人に接する事が子どもたちの不安や負担にならないよう、自然な形で出会えるような方法、事前に予定や状況が分かり見通しをもち安心して過ごせる環境を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動がマンネリ化しやすい傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの自主性、主体性を待つあまり、子どもたちの知っているあそび、好きな活動に偏りやすくなってしまふ。 ・週ごとに立案担当者を決めて原案を全職員で話し合い内容が偏らないように心掛けているが、活動の場になると新しい活動に上手く誘う事ができていないこともある。 ・小さな事業所内の限られたスペースで場所の使い方の工夫が難しいと感じる事もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもが取り組みやすい、また取り組んでみたいと思える様に分かりやすく見通しをもちやすい説明の工夫が必要。 ・日々の振り返りで話し合い、大人が自信を持って活動できるように、大人自身が楽しんでいる姿を見せる事ができるようにする。 ・その日の天候に合わせて屋内、屋外でも楽しめる工夫を考え職員間でアイデアを出し合い活動のレパートリーを増やしていきたい。
2	地域の公共施設などにあそびに行く機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の小中学校から幅広い学年の児童が利用しており、下校時間、送迎時間がそれぞれのため外出の予定をたてる事が難しい。 ・特に悪天候の日にも使える公共施設があまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休み等を利用して子どもたちと一緒に予定をたて、地域社会と交わる機会を積極的につくりたい。
3	洗体や洗髪、入浴が苦手、困難な児童への支援が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワーや浴室などの設備がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水あそびやプール遊びを通して、体の洗い方やきれいにすると気持ちが良いこと、濡れても怖くない感覚を伝えて行きたい。